

(一般)

基礎・基本を身につけ、意欲的に学ぶ子を育てる

～ICTを活用して「言語活動」の充実を図り、言語力を育てる授業づくりを通して～

やたなか小中一貫校（大阪市立矢田小学校・矢田南中学） 雨包正人 宋戸健太 西島美宇

1 研究主題設定の理由

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、自分の考えや思いを的確に伝え、相手の思いを受け止めながら様々な考えや思いを交流する豊かなコミュニケーション能力が求められている。そのためには、言葉に対する感性を磨き、言語生活を豊かにすることが必要である。言語力が向上し、豊かなコミュニケーションによる人間関係が向上することは、現代社会の様々な問題に対応できることにつながる。「確かな学力」「豊かな心」を基盤にすえた「生きる力」の育成を目指し、小中すべての教科・領域等で言語活動の充実を図り、これまで以上に子どもたちの言語力を育てていくことが重要である。

本校は平成24年度に大阪市初の施設一体型の小中一貫校として、大阪市立矢田小学校と大阪市立矢田南中学校が「やたなか小中一貫校」としてスタートした。

「仲間と協力し、自ら学び続ける態度と意欲を高め、自他を思いやる心を育てる」を学校目標に掲げ、重点目標である「言語力の育成」、「基礎的・基本的な学習内容の定着」、「豊かな人間性の育成」、「明るく、たくましく生きるための健康・体力を育む教育活動の推進」に小中が連携して取り組み、各領域、各教科で子どもたちの「生きる力」をつけていく。これまで1年生から9年生までICTを活用し様々な教科領域での言語活動や日常生活における言語環境の充実を図ってきた結果、言葉に関心を持ち、自分の考えや思いをいろいろな方法で伝えたり、表現する喜びや交流する楽しさを味わったりすることができた。また、根拠を示して筋道立てて話す子どもも増えてきている。しかし、まだ言語力の向上については十分とは言えず、言語力やコミュニケーション能力のさらなる向上やこれまで培った言語力を活用する場や伝え合う機会の充実、調べ学習や読書活動の充実といった課題が残され、今後も言語活動のさらなる充実が必要であることが明らかになった。

そこで、小中とも教科・領域等を限定せず、様々な場でコミュニケーションを図りながら言語力の向上に引き続き取り組むことにした。

2 研究の概要

昨年度の成果と課題を踏まえ、①ICTを活用し、効果的な言語活動を取り入れた指導過程を工夫する②習得したことを活用して、思考力や表現力を高める指導を工夫する③日常生活において言語環境の充実を図るを研究の視点とし、付けたい力を明確にした授業の取り組みと、言葉の力を日常的に高める工夫をすることで、より確かな言語力と豊かなコミュニケーション力を育てたいと考える。学年の発達段階を考慮し、言語活動を工夫した教科・領域等の特性に応じた授業を行ったり、交流の場や共に学び合う場を大切にしたりした効果的な言語活動を取り入れたりしながら取り組みを重ねていった。

言語力は豊かな言語生活を基盤として育つものである。授業だけでなく、すべての教育活動を通して多様な言語活動や言語環境を活用するとともに、様々な人との関わりの場を多く設定し、生きて働く言語力を身につけていくことが、やたなか小中一貫校の教育目標の達成につながると考える。

3 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① ICTを活用し、効果的な言語活動を取り入れた指導過程を工夫することができた
各学年の実態や発達段階に応じためざす児童生徒像と獲得させたい言語力を明確にすることで、学習目標や指導方法の方向づけができ、様々な教科・領域で言語活動を進めることができた。また、単元の目標、獲得させたい力を明確にし、ICTを活用して効果的な言語活動を取り入れることで単元構成や指導過程を工夫することができた。それにより、言語力を活用する場や交流する機会を持ち、自分の考えや思いを意欲的に表現したり、認め合いながら意見を交流したりすることができた。
- ② 習得したことを活用して、思考力や表現力を高める工夫をすることができた
各学年の実態に応じて、習得したことを活用する活動を進めることで、自ら考え表現しようとする意欲や学んだことを活用する力がついてきた。また、習得したことを活用する学習を通して、調べ学習や読書活動の充実を図ることができた。
話し方や聞き方の約束や基本話型等を学年に応じて提示し、様々な学習の場や発表の場で「話す・聞く」能力の育成を図った。また、ペアトークやグループでの話し合い、全体での発表、ジグソー型などの学習形態を工夫してお互いの考えや思いを交流する場を大切にした。その結果、相手や目的を意識しながら発表したり、筋道を立てて話したり、根拠や理由を示して説明したりする子どもが増えてきた。自分の考えを発表したり表現することが苦手な子どももグループで学習したりICT機器を使うことで自分の考えを伝えることができ、学び合い、伝え合い表現する楽しさを味わうことができた。交流することで、お互いを認め合ったり共感し合ったりすることができた。
- ③ 日常生活において言語環境の充実を図ることができた
言語力向上のための掲示物の活用や、やたなかタイム（モジュール授業）の名詩名句、名文の朗読暗唱、各学年の取り組み発表、委員会の活動発表、集会活動など言語環境の充実を図った。これらの活動を通して、言葉への関心や意識が高まり、様々な表現の仕方に触れたり、表現する機会を重ねたりすることで言語力の向上につながった。
また、朝の読書タイムや図書の時間、図書委員会による図書館開放などにより読書の幅を広げたり、読書量を増やしたりすることができた。

(2) 今後の課題

- ① すべての教科学習や活動において、培った言語力を活用する機会を増やしたり、ICTを活用した協働学習に取り組んだりすることで確かな言語力の向上に努める。
- ② 「習得・活用・探究」の学習活動を生かした指導過程を考える。